

「JR総連東北地方協議会 松川事件現地学習」開催！

10月27日(木)福島県松川の地で「松川事件現地学習」が開催されました。

今年2022年はJR東労組結成35年、えん罪・JR浦和電車区事件から20年の節目の年を迎えます。過去の労働組合弾圧に繋がる「謀略・えん罪事件」を学習する機会として開催されました。

秋田地本からは、三浦地本青年部長・大門地本青年部常任委員・地本佐藤副委員長が参加しました。

今回の松川事件は、国鉄時代に発生した下山事件・三鷹事件と共に「**三大フレームアップ事件**」として語り継がれています。この三大事件で、労働組合に対する国家権力による大弾圧が仕掛けられました。

フレームアップとは？

事件を捏造したり、人に無実の罪を着せたりすること。でっちあげ。

下山事件とは？

国鉄の第1次解雇が通告された1949年7月4日の翌日、7月5日に国鉄下山総裁が行方不明となり、翌6日に轢断死体となって発見された。この事件の犯人として人員整理に反対する国労や共産党に疑いの目が向けられた。

三鷹事件とは？

国鉄の第2次解雇が通告された翌々日の7月15日21時23分頃、中央線三鷹駅構内で車庫から突然発進した無人電車が駅構内・駅前交番を突き破って、死者6名・重軽傷者15名の事件が発生した。吉田首相は「不安を煽る共産党」と声明を発表、頻発する事件は「共産主義者の煽動によるもの」と断定した。

◆松川事件とは？

1949年(昭和24年)8月17日2時9分、青森発奥羽線上野行きの普通列車(C51機関車)が福島県内のカーブの曲り鼻で脱線転覆した。外側のレールは犬釘が抜き取られ、レールとレールの継目部の鉄板と、それを支えているボルトとナットが外されていた。この事故により、機関士1名と機関助士2名の計3名が亡くなった。

この事件により、当時の国労組合員10名が逮捕された。いずれも無実の罪を被せられた人達だった。その後14年にもおよぶ裁判で全員の無罪が確定している。しかし、真犯人は特定されていない。

三大事件の混乱の中、当時の国鉄の95,000名にもおよぶ大量解雇が完遂された。



国家や権力に抗する組織は弾圧されるということ、この「松川事件現地学習」を通じて学びました。松川事件・三鷹事件・下山事件では、尊い人命が奪われています。そして、犯人がデッチ上げられ強い組織力をもっていた労働組合に、その矛先が向けられました。

2002年に発生した「えん罪・JR浦和電車区事件」も労働組合に対する権力側の弾圧です。当時不当に逮捕された7名の仲間が警察の取り調べで言われた言葉が「**東労組は外から壊れないから内側から壊す**」「**労働組合が平和運動なんて生意気だ**」というものでした。脱退強要の罪で取り調べを受けているのに、なぜこのような言葉が出されたのか？東労組を弱体化させること、それがこの不当逮捕の目的であったのだと確信しています。

私たちJR東労組はこれまで「抵抗とヒューマンイズムの精神」のもと、当たり前の労働運動を推し進め、働く者のために「安全・健康・ゆとり」のもてる職場環境・労働環境を追及してきました。これからも、その方針は変わりません。共に東労組に結集し己の明るい未来を創るために行動しましょう。

過去の歴史を学び、権力に屈しない組織を創りあげよう！